

今号の主な内容	
2面	新宿区自治フォーラム2011 新宿区は今人口動向を中心として
6面	応援します!女性の健康づくり
8面	振り込め詐欺にご用心!
8面	詩と音楽のコラボレーション みみをすます
8面	新宿歴史博物館協働企画展 新宿中村屋に咲いた文化芸術

しんじゅくコール
☎ (3209) 9999
(午前8時～午後10時、1/1～3を除く毎日)

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>
携帯電話版 <http://www.city.shinjuku.lg.jp/m/>


携帯電話用二次元コード

互いの文化を認め合い 理解し合い 共に生きる

多文化共生のまちづくり

新宿区は、多くの外国人が学び・働き・訪れるまちです。区に暮らす32万人のうち約3万5,000人が外国籍の方で、その割合は約11%と23区で最も高くなっています。

区では、こうしたことを新宿区の特徴として捉え、区内外にプラスメッセージとして積極的に発信する「多文化共生のまちづくり」を進めています。「しんじゅく多文化共生プラザ」を拠点に、多文化共生連絡会などのネッ

トワークづくりを進めているほか、外国人への情報提供、日本語学習の支援、多言語による相談等にも積極的に取り組んでいます(8面で「しんじゅく多文化共生プラザ」の事業を紹介)。

今後も互いにコミュニケーションを深め、理解し合い、多様性を力に誰もが暮らしやすい地域づくりを進めていきます。

【問合せ】しんじゅく多文化共生プラザ☎(5291) 5171へ。

多文化共生連絡会の活動

しんじゅく多文化共生プラザを拠点に、地域にお住まいの方や活動団体等のネットワークづくりの推進、地域課題等を解決するため、「新宿区多文化共生連絡会」を設置しています。

連絡会には「しんじゅく多文化共生プラザのあり方検討」「外国にルーツを持つ子どもの学習支援」「災害時の外国人支援」の3つの分科会があり、しんじゅく多文化共生プラザの利用者、地域にお住まいの方、NPO等の団体、日本語ボランティア、外国人相談員、行政等が参加しています。この連絡会には、どなたでもご参加いただけます。詳しくは、しんじゅく多文化共生プラザへお問い合わせください。



連絡会に参加されている方から

会長 **太田昭二さん** (大久保いぶき町会)

連絡会には、さまざまな立場の人が集まり、地域課題の解決や多文化共生の事業の進め方について話し合っています。

私の住む大久保地域には、外国人住民が40%を超える地区もあり、多文化共生は非常に身近なテーマです。他の町会の皆さんもぜひ参加して、多文化共生についての理解を深め、多文化共生を分かりやすく区民の皆さんにお知らせしていきましょう。

副会長 **李承珉さん** (在日本韓国人連合会)

新宿の目指す多文化共生のあり方を具体的に、明確に定めた上で、皆が「新宿スタイル」の多文化共生の共通認識を持って同じ目標に向かって取り組んでいくことが必要です。

そして、日本人と外国人の交流によるメリットや課題点を明らかにし、意見を交わすことで、初めて相互理解が前進すると思います。

小林普子さん (NPO法人みんなのおうち)

新宿で暮らす日本人も外国人も、地域社会で生活する住民としての意識が希薄になっています。「地域住民」としてお互いに関心とふれあいの心を持ち、共に暮らしていく意識を持つことが重要です。

山本重幸さん (共住懇)

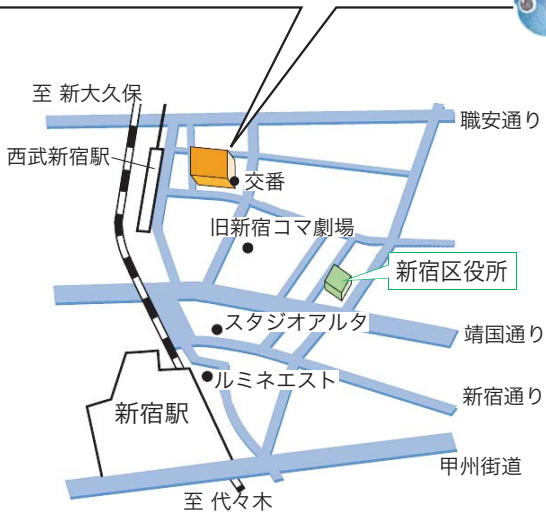
区内の各地域の方に連絡会への参加を呼び掛け、多文化共生の取り組みをより広めていく必要があります。核となるしんじゅく多文化共生プラザの機能を周知し、活動を支援していくよう、この連絡会が働きかけていくことが重要です。

渡辺ナタニーさん (しんじゅく多文化共生プラザ・タイ語相談員)

日本に来て言葉が分からず、安定した生活を送ることが困難な外国人がいます。住居・就職・医療・子どもの教育という生活の基本・基盤をサポートする仕組みを充実させ、利用しやすいサービスにしていける必要があります。

しんじゅく多文化共生プラザ

【所在地】歌舞伎町2-44-1、東京都健康プラザハイジア11階(JR新宿駅東口から徒歩10分、西武新宿駅から徒歩5分)
【電話番号・ファックス番号】
☎(5291)5171・FAX(5291)5172
【開館時間】午前9時～午後9時(毎月第2・第4水曜日と年末年始は休館)



区長 **中 山 弘子** (なかやま ひろこ)

この冬は凍てつく寒さでしたが、光の明るさは春のきざしを感じさせます。先週の土曜日、2月12日は田辺茂一の誕生日でした。茂一は、新炭問屋「紀伊國屋」の長男として現在の新宿三丁目に生まれ、昭和2年(1927年)、自宅の隣に書店を、2階にはギャラリーを開業しました。紀伊國屋を日本を代表する書店にすると同時にホールや画廊を併設し、多くの才能を発見し育てました。また、随筆を書き、レコードを出し、テレビや映画にも出演するなど、多彩な才能を発揮しました。▼茂一は、懐深く猿轡さも力とする生き方をした、まさに昭和の新宿を代表する文化人でした。「そこへ行けば何かがある」と思わせる現在の活気ある新宿を育てた一つの原点であると思います。▼また、新宿歴史博物館では今月19日から4月10日まで、協働企画展「新宿中村屋に咲いた文化芸術」を開催します。田辺茂一が昭和の新宿文化であるなら、大正の新宿文化は、中村屋の相馬夫妻が担い手でした。「中村屋サロン」の画家中村彝の「エロシエンコ氏の像」(重要文化財)等も展示します。ぜひ、足を運んでください。落合に残っていた中村彝のアトリエの整備も始まります。▼もう一人、忘れてはならない人が、今月9日生まれの夏目漱石です。早稲田南町の漱石山房の復元に向けて、ようやく大きな一歩を踏み出します。寒さの中に動きや期待を抱かせる2月。今後もご支援いただけるよう力を尽くします。